

取り組み状況資料

条 項：第11条 市長の役割と責務

市長は、市民から信託を受けた本市の代表者として、この条例を遵守し、市民自治のまちづくりを推進しなければならない。

2 市長は、公平かつ誠実な行政運営を行わなければならない。

3 市長は、市政に関する情報を市民に分かりやすく説明しなければならない。

4 市長は、補助機関である職員の能力向上を図るとともに、効率的な組織の運営に努めなければならない。

取り組み：第3項

①定例記者会見（H22～）

②各種団体との対話集会

第4項

③自己研修の支援、職場研修、職場外研修の実施

④育児休業中の職員に対し、通信講座等の研修に関する
情報を提供

⑤江別市職員の仕事・子育て・女性活躍推進に関する行
動計画の策定（H28）

市長定例記者会見の概要

目的：江別市記者クラブを通じ、報道によって市の取り組みを広く市民にPRするために実施。

回数：年6回開催。1月／年頭記者会見、2月／予算発表、3月／人事異動、6月／第2回定例会前、8月／第3回定例会前、11月／第4回定例会前

内容：市が取り組む事業および他の機関と連携する共同事業などについて、事前周知及び結果報告等。

例／予算案の概要、市の人事異動、新たな学校の開校等、保育施設の開設等、各種イベントの実施、新たな補助金の設置及び結果報告、新たな商業施設の開設、江別の顔づくり事業の状況、ほか

各種団体との対話集会

1 江別市自治会連絡協議会

(2)

自連協だより「ななかまど」

平成26年1月1日 第153号

平成25年度江別・野幌・大麻地区連主催
市長との対話集会

- 10/18 大麻地区自治連合会連絡協議会
- 11/14 野幌地区自治会連絡協議会
- 11/21 江別地区自治会連絡協議会



【市長】

江別では、平成17年をピークに人口が減少しています。しかし、大麻地区では昨年より、増加傾向にあります。増えた要因は子育て世代の転入です。近隣市在住の子育て世代に対し、アンケート調査を行ったところ、当市は子育てがしやすい市として評価されているということが分かりました。保育所や子どもが安心して遊ぶことができる場など、子育て環境の整備を行うことで、住みやすいという評価が上がり、さらに江別に子育て世代が来てくれるのではないかと考えています。人口減少を食い止めたいという想いから、現在様々な事業を進めています。

人口推移を見ると、将来に向けてどのような対応をすべきなのかが分かってきます。

高齢化に伴いどのようなことが起こるかということ、ここ5年で介護保険に使う費用は17億円増えました。これは次の江別経済を左右することにも繋がりますので、増加を抑える仕組みを早く作りたいと考えています。長寿日本一となった長野県では、野菜を食べる、塩分を抑える、健診を受ける、運動をするということを30年間推進してきました。これをモデルとして、医療費のかからない街にしたいと考えています。また、せっかく長生きしても寝たきりの期間が長ければ何なりません。認知症予防に大学を活用するなど、健康促進と長寿命化を図るべく、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

その他、各地区からの提案事項について活発な意見交換を行いましたので、内容の一部をご紹介します。

大麻地区自治連合会連絡協議会

【問】 来年度大麻団地造成50周年を迎えるにあたり、今後の大麻・文京台地区を盛り上げていく絶好の機会と我々はとらえています。この50周年を冠とした記念行事やセミナー等の開催を考えています。この点について、市はどのような形での協力、支援をして頂けるのか、また、市の方でアイデアなどがあれば、教えいただきたい。

【市長】 現段階ではまだ具体的な内容を伺ってはいませんが、基本的に地域の皆さんが何をどういう形で実施したいかということが重要であると思っています。その内容を踏まえたうえで、色々な支援の仕方があると考えます。例えば記念行事については、子どもたちに対して色々な事業を実施していくとすれば、教育の観点からの支援も可能性があります。更には、国の事業も活用できるかもしれません。また、北海道でも取り扱う事業が結構あります。以前に、ヤツメウナギの特性を捉えて、産業振興させようという事での研究・検討に3年間の補助事例があります。大麻がちょうど50周年となりますので、更に道営団地を今リニューアルしようとしています。リニューアルという形になり、記念事業となれば、建設関連でもお手伝いできるかもしれません。いずれにしても、どこの団体がどういう形で、何を実施するかの形が決まらないと、支援がしづらく、結論めいた話ができないというのが実態ではないかと思えます。今後そこを詰めていく必要があると考えています。

野幌地区自治会連絡協議会

【問】 江別の顔づくり事業、中原通・南大通の整備、RTNパークの造成・企業誘致に係る進捗状況と見通し等を踏まえ、今後の野幌地区の活性化に向けたまちづくりの見通しについて、教えてほしい。

【市長】 江別の顔づくり事業に関して言えば、平成25年度に完了する予定の工事として、中原通と南大通の一部、東西の鉄西線と旭通があります。また、平成27年度までに完了する工事の中で主要なところは、8丁目通、野幌駅北口の広場と白樺通りです。さらに、平成31年度までに完了予定の工事として、野幌駅南口周辺、野幌駅南側のグリーンモールがあります。これらの工事は、北海道の方にも了承を得ていますので、順調に進んでいくと思います。

RTNへの企業の誘致に関してですが、コープ札幌の誘致が一年遅れとなっています。江別に進出した企業が苦勞する点としては、人材の確保が挙げられます。人材の確保が困難であるために、事業を拡大しようにも人手が足りないという状況になってしまいます。江別から札幌に働きに出るという方は多くみられますが、札幌から江別に働きに来るという方がまだまだ少ないのが現状です。札幌から人が集まるような形にしなければ、なかなか企業誘致は難しいのではないかと考えています。



江別地区自治会連絡協議会

【問】 今回初めて学校を借りての避難訓練となり、参加者は132名となった。訓練後の評価会議や防災リーダーの研修会を開催することを提案したい。

【市長】 防災訓練が終了した後、問題点についての情報を流す必要性はあると思いますので、情報の流し方も含めてご相談していきたいと考えています。このことについては、江別地区だけの問題ではないと思いますので、地区連合会として江別地区から江別市全体に提案していただき、野幌、大麻を含めて議論できる様な仕組みにしていきたいと思っています。

もう一つ提案のありましたリーダー育成については、防災計画の中での重要な位置づけとなっています。自治会活動研修会では毎年テーマを決めてあると聞いているので、そういうところのテーマを「防災」にさせていただいて、皆さんで議論してもらおうという風にしていこうかと考えています。

自主防災組織についても、今現在、まだまだ不足しているように感じます。全体162自治会のうち27組織、143自治会が入っている状況です。皆さんの参加が可能となる組織になるためには、防災リーダーが中心となって活動していく必要があると思います。

訓練の評価、それに対する反省、反省内容の共有と合わせ、できれば全自治会で避難所運営訓練を一度は経験していただきたいと考えています。経験するのとならないのではかなり違うと思います。防災訓練は一度で終わる訳ではなく、どんどん積み重ねていかないと、次に繋がらないと思います。これだけの人口のあるところなので一巡するのは大変かもしれませんが、一人でも多くの方たちに参加いただけるよう努力していきますので、よろしくお願いいたします。

平成26年度 江別・野幌・大麻地区連主催 市長との対話集会

10/31 大麻地区自治連合会連絡協議会
11/17 野幌地区自治会連絡協議会
11/20 江別地区自治会連絡協議会

今回は、各地区とも

- ① 江別市立病院長による基調講演
- ② 市長による対話のテーマの趣旨説明
- ③ 意見交換(取組事例の紹介、提言等)

の順に対話集会が進められました。内容の一部(抜粋)を紹介します。



<基調講演> (三地区共通)

「健康長寿社会における市立病院の役割」

江別市立病院長 梶井 直文

【院長】 高齢化の問題について、「2025年問題」がある。昭和22年から昭和24年に生まれた「団塊の世代」が、全て75歳以上になる年であり、超高齢化社会の到来により医療と介護の需要が増大化すると見込まれる。

ここで、星旦二(首都大学東京)先生らによる、1998年から2年間、全国約2万2千人を追跡調査した調査結果を紹介したい。

「健康感」と生存率について、自分は健康だと考えている人は、健康でないと考えている人より生存率が高い。「病は気から」という諺どおり、体調などに多少の支障があっても「自分は健康」と自信を持っている人は長生きである。

「人とのつきあい」と生存率では、幅広い付き合いをしている人は長生きであり、「ボランティア活動」と生存率では、ボランティア活動をしている人は長生きである。社会とかかわりを持ち続けることが長生きできる秘訣であり、自治会役員の皆さんは、まさにこれに当たる。また、社会活動をしていなかった人ほど、3年後には要介護状態になりやすく、しかも要介護度が高いことが分かった。

江別市立病院は、総合内科医が、総合診療と訪問診療で高齢者を医療面から支援する、お年寄りにやさしい病院として、「江別市の高齢化対策」の一翼を担うつもりである。

<対話のテーマ> (三地区共通)

「健康寿命について ～地域との

連携による健康づくり事業について」

【市長】 高齢化率は年々高くなっていき、平成37年には34.6%と3人に1人が高齢者となる。介護認定率も高くなっていく。要支援1・2の割合が多いが、この方たちを要介護にしない仕組みを考えなければならない。

大麻地区は、高齢化率が3地区の中で最も高いにも関わらず介護認定率は低い。また、1人当たりの診療費も最も低い。町名別の国保特定健診受診率を見ると、大麻地区は、全部ではないが受診率が高い。

男性の、平成25年の全国平均寿命は80.21歳、健康寿命は71.19歳である。この差の9.02年が何らかの形で床に伏している。女性は、平成25年の全国平均寿命が86.61歳、健康寿命が74.21歳である。平均寿命と健康寿命の差をいかに小さくするかが課題であり、健康寿命を延ばす仕組みにしなければならない。

平成22年の都道府県別の健康寿命では、北海道は男性が32位、女性が35位である。男性の1位が愛知県、2位が静岡県、女性の1位は静岡県である。

長野県では、減塩運動などを進めた結果、平均寿命が男女ともに全国一となった。健康寿命が高い静岡県では、「ふじ33(さんさん)運動」という、「運動」、「食生活」、「社会参加」の3つの分野に3人で励まし合い、3か月間やりましょうというプログラムを実施している。

江別市でもこういう情勢を踏まえて、長生きできる仕組みが出来ればと考えている。

＜主な意見交換＞

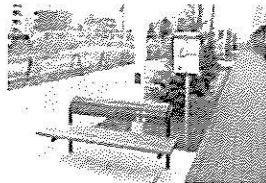
●大麻地区●

【発言1】 花のある街並みづくり運動をやっていて、月2回ほどの手入れに参加してもらい、みんなで話をするように思っている。また、よそで活弁に行っているという聞いて、ラジオ体操をベースは夏休みだけが4ヵ月間やっている。

【発言2】 国保出前健診を7月に自治会館で行った。近隣の自治会にも声を掛けて、合計30名が熱心に受診した。参加した町内の皆さんからは来年もやってほしいと言われている。集団の健診がこんなに楽しいものかと思った。来年もお願いしたいと思っている。

●野幌地区●

【発言1】 市民体育館の健康マシンは利用者が多く、人気マシンは順番待ちの状況が見受けられる。市民体育館の利用者数も増えていることから、長期的に増やしていくことを提案する。この他、東野幌体育館など健康マシン未設置施設への設置、高齢者が散歩中に気軽に利用できる簡易設備を公園に設置することも合わせて提案したい。



背伸ばしベンチ

【市長】 市民体育館にスペースがないため、小さいものに入れ替えて台数を増やせないか、課題であるか検討

していききたい。東野幌体育館は構造上難しい。公園等の健康に関連したベンチについて、今後もそれぞれの地域の特色を持ったベンチを設置していきたい。

【発言2】 11月に保健センターの保健師と栄養士が来て健康づくりの体験型講座を行った。減塩について、実際に豆腐に0.1ccの醤油をかけたが、実物でやってみて味わうのはいいと思った。1日に必要な野菜350gのサンプルみたいなものも持ってきてくれて、有意義な2時間を過ごした。

●江別地区●

【発言1】 保健センターの「健康づくりはつらつ教室」事業の既存の会場の継続を願いたい。不可能な場合は、市民あるいは自治会の健康増進活動を助成金などで支援することや、定期的な保健師による指導、助言を今まで通り継続することなどについて考えられないだろうか。

【発言2】 老人憩いの家が市内に4か所ある。広範囲にわたっているのだから、増設は考えられないか。また、足の不自由な人はタクシーで通っている。高齢者の足として何か考えていただけないか。

【市長】 はつらつ教室については、年々拡大してきたので同じようには出来ないが、どういった形で対応できるか、検討したい。また、憩いの家への交通機関だが、非常に難しい問題である。公共交通のあり方検討委員会で議論させていただきたい。

平成27年度 江別・野幌・大麻地区連主催 市長との対話集会

10/30 大麻地区自治連合会連絡協議会
11/17 江別地区自治会連絡協議会
11/19 野幌地区自治会連絡協議会

— 三地区共通テーマ —

「江別市まち・ひと・しごと 創生総合戦略について」

【市長】 日本の総人口は、平成20年の1億2,808万人をピークに減少している。「人口減少と地域経済縮小の克服」を目的として、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、地方自治体は平成27年度中に「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとなった。

江別市人口ビジョンにおいて、人口の現状を分析し、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示している。江別市の人口は、平成17年の125,601人がピークで国の推計では、平成72年に70,145人にまで減少すると予想されている。社会増減(転出者数-転入者数)については、平成20年から若干の転出超過が継続している。自然増減(出生数-死亡数)は昭和48年がピークで、平成15年以降は死亡数が出生数を上回る自然減が継続している。

この人口ビジョンで明らかになった課題を踏まえ、今後5年間に取り組む基本目標や施策の基本的方向を示し、具体的施策を明示するため、総合戦略を策定した。

- 基本目標① しごとをつくり安心して働けるようにする
- 基本目標② えべつへの新しい人の流れをつくる
- 基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育てを支援する
- 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしと健康を守るとともに、地域と地域を連携する

これらの基本目標の達成に向けて、大学、自治会等の市内関係機関、他自治体と連携した大学生の地域定着推進、2世帯、3世帯の同居や親元への近住の支援など、様々な施



策を行い、平成31年までの5年間で、まずは転入超過を目指す。

＜各地区連からの提案と主な意見交換＞

○大麻地区

【発言1】 文京台地区にコープさつほろの寮が建てられた。寮生は中国の若い女性を中心に、文化の違いがあり会員も不安になっていた。文京台第二自治会では、国際センター、コープさつほろの協力により日本語教室を開くことになった。母国に帰ってから、江別はいい所だったとお話をしてもらえたらと思っている。

【市長】 コープさつほろからも、地元の取り組みが素晴らしいと評価をいただいている。地元企業ということで、育てていただければと思う。

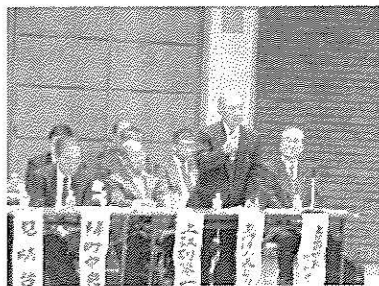
【発言2】 大麻西町自治会では、ラジオ体操を365日雨の日も風の日も行っている。子どもを中心とした取り組みを積極的に行っていて、健康増進だけでなく住民間コミュニケーションの充実に置き換えて展開している。

【市長】 健康寿命を延ばすためには、食・運動・健診トータルで事業を進める必要がある。運動には体操も入ると思っている。

○江別地区

【発言1】 今年3月は雪が降らなかったが、過去3年間

は雪が多くて各自治会で苦労した。市内95箇所では自治会排雪を行っているが、まだやっていない区域は是非この冬からやってほしいと思っている。



【発言2】 市道、道道、国道が交差しているエリアがあり、どちらかの除雪が先行した後に高い雪山ができ、手押し式信号機のボタンが押せなくなってしまうことがある。市からも見に来てくれたこともあるが、その際、管理区分を言い訳にせず是非、協調して対応してほしい。

【市長】 交差点排雪など、開発局でできることは開発局ですようお願いしている。市道と国道、道道と市道が交差しているところは、申し訳ないが市に言っていたくしかない。極力対応して出来る限りやりたい。自治会・業者・市による三者懇談会を現在開催している。また、除雪技術の向上を図るための研修を事業者に求めている。

○野幌地区

【発言1】 自治会活動は、子どもから高齢者まで多くの方が関わっている。最近では趣味の多様化でサークルが増えているが、連日申し込みが多くて施設が使えないことがある。まちの活性化には、住民が活動することが大事だと思っている。公民館、住区会館などがあるが、新しい時代に合うような施設の充実を願いたい。

【市長】 住区会館の増設は難しい。どうしても利用が集中する時間帯があるため、お互いに譲り合い、工夫して使う仕組みを考えていただけたらと思う。また、自治会館と連携した利用の仕方をお願いできないかと思っている。

【発言2】 循環バスの実証運行が始まって1ヶ月たった。高齢者が多く乗っていると思うので、高齢者だけでも190円のうち90円補助して、ワンコインで走らせてもらえないか。

【市長】 10月末までの実績が出た。採算ラインは1便当たり20人で、利用者は錦町先回り・寿町先回り合わせて1便当たり平均5.9人である。朝早い時間帯の便の利用が多い。自転車を使っている人が多いため、これから増えるのではないかと考えている。実証運行の問題など調査していきたい。

市議との ふれあい懇談会

3月21日、三好市長をお迎えして「第29回ふれあい懇談会」が野幌公民館にお

いて開催されました。「江別市を取り巻く社会動向」と題して講話をいただきました。少子高齢化の現状では、健康長寿が望ましく、運動機能の維持をはかる方法、工夫の重要性。「自分の健康は自分で守る」という強い意志が必要と感じました。また、人口の推移では子育て



世代が増えている、という嬉しいお話がありました。その他に子育て支援、企業誘致・フード特区・江別の特保では市内の大学や企業との連携のお話し等、多岐にわたる内容に出席者は熱心に耳を傾けました。

最後にはいくつかの質問に対し、分かりやすく答えていただきました。

三好市長との「ふれあい懇談会」は今年で6回目となりましたが、江別市の現状を知る事が出来、貴重な機会となりました。佳みよい、えつこの活力と潤いのために、市民ひとりの関心と協力がより、大切になると、実感した懇談会でした。

市議との ふれあい懇談会

2月24日野幌公民館ホールにて、三好市長を囲んで開催されました。「江別の高齢化について考える」健康寿命を伸ばすために

10年後の平成37年には、3人に1人が65才以上の高齢社会になり、それに伴う介護認定者数の動向と将来の見込み、地域別の現在の状況、介護給付費及び国保保険給付費等の説明がありました。



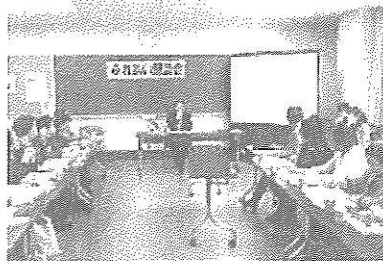
これから何より大切なのは健康で日常生活を送れること、健康寿命を伸ばす生活習慣が大切であると話されました。女性を例にすると、平成25年の平均寿命は86才でしたが、日常生活に制限のない健康寿命は74才でした。このことから12年間は健康を害し、何らかの手助けを受けている期間で、この期間を少しでも短くする為には、長寿日本の長野県の取り組みを例に、減塩と野菜を多くとる食生活、運動・仕事等生き甲斐を持ち、社会参加をすることが大切と話されました。

最後に市立病院の充実した体制の説明があり、大変に参考になりました。今後の生活習慣の指針となる勉強をさせて頂き、有意義な懇談会となりました。

最後に市立病院の充実した体制の説明があり、大変に参考になりました。今後の生活習慣の指針となる勉強をさせて頂き、有意義な懇談会となりました。

市議との ふれあい懇談会

2月25日野幌公民館において、「地方創生総合戦略から見た江別市の現状と展望」をテーマに三好市長を囲んでお話しをお聞きしました。江別の人口は、年々減少傾向で2060年には7万人まで減少するという推計があり、札幌人の運動産出者が多いため、札幌市の人口比率が低く産業規模・市場規模に影響があるとの説明がありました。その為には、産業者企業でも振興人材が活躍できる仕事づくり、若い世代が地域と関わりを持ち続けたいと思ってもらえるように、新しい人の流れをつくり、安心な暮らしと健康を守る大切さも話されました。とても有意義な懇談会となりました。



第32回 ふれあい懇談会